

開倫ユネスコ協会2025年度文芸大賞統一テーマ『私の～宝物（大切なもの）』、
人をひきつけ、魅了するソフトパワーを持つ「宝物（大切なもの）」を、深く理解。
文芸作品として、自分のことばでいい表し、表現・説明してみよう

開倫塾

塾長 林明夫

Q：開倫ユネスコ協会は、2026年1月に創立25周年を迎えるそうですね。おめでとうございます。

A：（1）ありがとうございます。皆様のおかげと、心から感謝いたします。そこで、創立25周年記念事業の一つとして、2025年度「開倫ユネスコ文芸大賞」の「統一テーマ」を、人をひきつけ、魅了するソフトパワーを持つ「私の～の宝物（大切なもの）」とさせていただき、今までの自由なテーマのものとともに、募集させていただきたいと思います。

（2）「開倫ユネスコ文芸大賞」は、「童話大賞」からスタート、「童話大賞」「小説大賞」「エッセイ大賞」「ポエム（詩）大賞」「デザイン大賞」「NIE大賞」「書道大賞」など、様々な分野で作品を募集。毎年9月が応募締切、10月表彰式となっています。

（3）10月の表彰式では、各分野の専門の先生との交流会もあり、とても好評です。

○是非、今から、ご準備ください。開倫ユネスコ協会創立25周年を前に、本年度は、「塾生、一作品」をお願いいたします。

○保護者、地域社会、ビジネスパートナー、開倫塾の全スタッフの皆様も、是非、作品をご提出なさり、「ユネスコ活動」にご参加ください。

Q：人をひきつけ、魅了するソフトパワーを持つ「私の～の宝物（大切なもの）」とは、例えば、どのような内容が考えられますか。

A：（1）開倫ユネスコ協会が、設立前からずっとお世話になっている「足利ユネスコ協会」では、「私の街の宝物」を「テーマ」に、長年、「絵画展」を実施。足利市内の小中学校を中心にも募集し、優秀な作品を表彰。足利市にあるショッピングセンター「アピタ」で優秀作品の展示会をなさっておられます。

（2）「足利ユネスコ協会」では、60年以上、毎年夏休みに、1週間の「足利ユネスコ学校」を開催。足利市の教育プログラムとして、全国から高く評価されています。私も、小学生のときに参加させていただき、多くのことを学び、ユネスコ活動が大好きになりました。

（3）足利ユネスコ協会の「私の街の宝物」絵画展では、「日本最古の学校、足利学校」「8月第1土曜日の足利大花火大会」「森里千里によってうたわれた、渡良瀬橋」「足利フラワーパーク」「足利市の中にある国宝、鑁阿寺（ばんなじ）の本堂や大イチョウ」「節分の日の鎧（よろい）行列」などの絵画作品が毎年出るようです。

(4) 例えば「私の街の宝物」「私自身の宝物」「私の家の宝物」「私の友人の宝物」「私の学校の宝物」「私の部活動の宝物」「私のお寺・神社の宝物」「私の図書館の宝物」「私の散歩道の宝物」「私の美術館の宝物」「私の市・区・町の宝物」「私の県・都の宝物」「私の国の宝物」などなど、自分が大切に思う「宝物」を、自由自在に、自分の力で探し出しましょう。十分にその素晴らしさや、「他の人をひきつけ、魅了するソフトパワー」を持つものは何かを「深く理解」。そして、どのように、「自分のことばで、いい表したらよいか、表現・説明したらよいか」を考え、各ジャンル（分野）の作品におまとめください。

○「私の塾、開倫塾の宝物」の「テーマ」の作品も、是非ご提出ください。

Q：ところで、「ソフトパワー」とは何ですか。

A：「力（パワー）」には、2つあります。「軍事力」や「経済力」でほかの国や人々を引き寄せる「ハードパワー」が第一。「人格や、文化や伝統、自然、最先端の科学技術や芸術（アニメやPCゲーム、ポップ音楽も含む）で、多くの人を引きつけ、魅了」するのが、第二の「ソフトパワー」です。この「ハードパワー」と「ソフトパワー」を兼ね備えたのが、「スマート（賢い）パワー」です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：大切なことは、身近なところにあるものや、身近な人の「大切さを」「素晴らしさ」を見出し、認めること。同時に、自分自身の素晴らしさ（自分の潜在能力）を自分で見出し、どんどん伸ばすことです。幸福の青い鳥は、身近にもいますし、自分自身の中にも、必ずあります。この、「開倫ユネスコ文芸大賞」の作品作りを通して、これから数か月かけ、自分にとっての「ソフトパワー」をゆっくりお探し下さい。

*参考文献

元ハーバード大学行政大学大学院（ケネディ・スクール）学長、ジョセフ・ナイ先生著「ソフトパワー」日本経済新聞社 2004年9月13日刊。

ナイ先生は、「ソフトパワー」の提唱者で、つい最近まで、米国、日本をはじめ世界各国の外交・国際政治に大きな影響を与えた国際政治学者です。塾長も 1998 年に同大学院に短期留学中にご指導いただきました。5月6にご逝去なさいました。ご冥福をお祈りいたします。

2025年5月10日（土）9時12分